くにみ

【第55号】
昭和37年4月15日発行
非売品
発行所 国見町公民館
発行人 佐藤善次郎
編集人 鈴木美一
印刷所 宇佐美印刷所

育英財産として寄附

奨学資金貸与条例などきまる

山十町五反歩林 山田長一氏の美挙

当町藤田日渡の山田長一氏は、白石市越河平にある山林一〇町五反歩を地上立木もろとも、町の育英資金の財源として寄付を申出た。町では三月の町議会でこれを採納し、全会一致で氏に対する感謝の決議をし、さっそく「山長育英財産管理条例」並びに「奨学資金貸与条例」を設けて氏の好意に応えた。

山長育英財産管理条例によれば、この山林は寄付者の精神を充分尊重するために、奨学資金以外の使用を禁止し、維持管理のために特別会計を設け、更に管理委員会を置くことになっている。

また、「国見町奨学資金貸与条例」によれば、国見町出身の高校生又は大学生であって、能力があるにもかかわらず経済的理由により修学困難と認められる者に奨学資金を貸与し、もって教育の機会均等をはかり、健全な社会の発展に資することになっている。この資金は、品行が正しく学術に秀れ、身体強健であることその他の要件をそなえた者のうちから本人の希望及び家庭の事情を調査し、別に定める審査会にはかって教育委員会が決定する。その額は高校生は月二千円以内、大学生は月五千円以内とし、卒業六ヶ月後から月賦又は年賦で十五年以内に返えすこととし、利子はつけない事になっている。

これによって、能力があるにも拘わらず家庭貧困の為に進学できない青少年を救い、天賦の才能を存分に発揮させ、国家社会のために貢献させることができることだろう。

「より」「だより」「会」「議」

三月定例議会

奨学資金貸与条例37年度予算など成立

三月十九日町議会定例会が開かれ、「昭和三十七年度国見町歳入歳出予算」他二十二件が審議可決された。会期四日、議案は次のとおり。

記

1、寄付採納の件
（山田長一氏から申出のあった山林拾町五反歩の寄付を採納した）
2、国見町山長育英財産管理条例制定の件
3、国見町奨学資金貸与条例制定の件
4、国見町国民健康保険条例制定の件
5、国見町火災予防条例制定の件
6、福島県消防団員等公務災害補償組合規約の一部改正の件
7、国見町職員定数条例の一部改正の件
8、国見町上水道事業給水条例の一部改正の件
9、水道事業変更の件
10、自昭和三十六年度至昭和三十八年度国見町上水道拡張事業費継続年期及び支出方法変更の件
11、中小企業等育成預託の件
12、一時借入金の件
13、上水道特別会計一時借入金の件
14、昭和三十六年度国見町国民健康保険特別会計歳入歳出追加更正予算
15、昭和三十六年度国見町例制定の件
16、昭和三十六年度国見町歳入歳出追加更正予算
17、国見町財産報告
18、昭和三十七年度国見町藤田財産区特別会計歳入歳出予算
19、昭和三十七年度国見町入山財産区特別会計歳入歳出予算
20、国見町国民健康保険特別会計歳入歳出予算
21、昭和三十七年度国見町上水道特別会計歳入歳出予算
22、昭和三十七年度国見町歳入歳出予算
23、国見町山長育英財産管理委員委嘱につき同意を求める件
（以上何れも町長提出で原案とおり可決決定）

四地区、四一部落完納（総合九九・四%）

古川氏（藤田地区）に感謝状

国見町役場では、四月十日納税組合長会議を開き、昭和三十六年度納税成績の反省を、優良納税部落及び優良総合納税貯蓄組合の表彰をした。

昭和三十六年度の完納は、小坂・森江野・大木戸・大枝四地区の全部落三十一と藤田地区十部落の計四十一部落で前年の二十八部落に比し十三部落の増となり、総合成績九九・四パーセント（昨年は九八・二パーセント）というすばらしい成績を示し、恐らく県下最優秀を誇り得るものと思われる。

尚納税施設の育成強化等について多年にわたり貢献された前藤田地区総合納税貯蓄組合会長古川要吉氏に感謝状を贈りその労に酬えた。

地区別納付成績並に完納部落は次のとおり

地区	納付率	前年同期
藤田	九九・四	九七・〇〇
小坂	一〇〇・〇〇	九八・六四
森江野	一〇〇・〇〇	九八・四一
大木戸	一〇〇・〇〇	九九・四六
大枝	一〇〇・〇〇	九九・三三
総合	九九・四	九八・二一

【藤田】駅前、大町南、大町北、宮町北、鶏町、石母田東、石母田表、石母田北、石母田西、石母田原

【小坂】小坂、太田川、前田、板橋、泉田上、泉田中、泉田下、鳥取、内谷西、内谷東

【森江野】才一、才二、才三、才四、徳江北、才八、才九、才十、才十一、才十二

【大木戸】貝田、山根、大木戸、高城、光明寺

【大枝】北部、中部、川内、並柳、築館、原町

八巻税務課長談「昭和三十六年度は皆様の格段のご協力によりまして、国見町発足以来最高の納付成績であったことを深く感謝申し上げます。町の政治は町の住民によって行うことの意思表示が納税の面に表現されたものと確信し、地方自治に対する理解の最たるものと考え、真に喜ばしい限りでございます。」

水稲原種は引受けました

今年も念入りに採種

国見町採種組合の採種事業を一手に引き受け、健全な充実した種子を採ろうと、この仕事を担当している塚野目農事研究会（会長菊地仙七氏）では、いま、その準備に大わらわである。この研究会は二一名の会員を有し、昭和三十五年からこの事業に協力し、町内の水稲品種の更新に大きな原動力となっている。ことしも五月十五日田植を目標に四月八日播種をしたが、塩水選や消毒を完全にし、浸種、催芽も念入りにして、絶対信用のおける優良種子の生産に努めている。

これらの作業は稲作担当の普及員と地区農協の営農指導員の緊密な指導を受け、会員一致協力して当っているもので、町内の各農家が安心して更新できる優良種子を生産しようとする担当者の努力には頭がさがるといわれている。

ことしの採種品種は次のとおりである。

トヨチカラ　二〇アール
セキミノリ　一〇〃
ササシグレ　一〇〃
越路早生　二〇〃
コガネモチ　一〇〃
他に普通種で採種する農林二一号　三〇アール
東北三三号（陸稲）一〇〃

その他大豆の採種もする　フクメジロ　一〇アール　オクメジロ　一〇〃

〔農事メモ〕

▼稲作

(1) 保温折衷苗代の管理
◎踏切溝の水は七～八分目にし、絶対にポリエチレンや油紙の上に水をあげないこと。
◎水は二～三日おきに交換すること。
◎除紙は遅れない様に、本葉一枚半（草丈四㎝位）の時が適期である。

(2) 種籾は必ず塩水選を行って、良い種子を播くこと。

(3) 種籾の消毒は、播く前に水銀剤の千倍液に十二時間浸漬すること。

(4) 水苗代では、苗ぐされ病を防除するため、播種後五日目頃とその後五～七日目の二回、水銀剤の五百倍液を坪当り五升灌注すること。

(5) 苗代面積を一割位多くし良い苗を確保すること。

(6) 本田では次の事項に留意すること。
◎植付株数、本数の増加
◎早植では活着をよくするために全層及び表層施肥を行う事が大切である。
◎除草剤は時期と量を間違わないように注意すること。

今月のことば

◎完納で町は明るく伸びて行く……ことしもどうぞ!!
◎おみやげをやめて明るい子らの旅……これこそ新生活運動です
◎木も伸びて子供も伸びて町伸びる……育英林十町歩
◎伸びようきたえよ心とからだ……またしても快報
◎――但し国見町には嫁の来てが多くて困る……としたいもの
◎心にもごみがたまらぬようつねに反省しましょう

映画プロ案内

○成人病問答……一巻
○夫の気もち妻の気もち三巻
○わが家の掲示板……一巻
○歌の花束……二巻
○嫁・夫・姑……四巻
○一枚のふとん……二巻
○村の老人学級……三巻
十八日大枝　十九日大木戸
二十日藤田　二十一日森江野
二十二日小坂　各小学校
午後七時三〇分より

一方―新任の先生方―どうぞよろしく

国見町の教育

教育長　春日佑幸

昭和三十六年度は国見町の教育上特筆すべき年度であり中でもつぎの四つは町の教育の大きな進展でした。

県北中の新校舎七教室増築

五人制の教育委員会発足

森江野小のプール完成

山長育英制度の確立

本年度の県北中学校は、本校二四学級と養護学級一をもつ大組織となって、関係者一同張切っていてくださいます。町民各位も教育の重要性に想いをいたし、深いご理解とご協力をおねがいいたします。

尚昨年は、県北中の生徒が二人まで不慮の交通事故に遇ったことは、まことに遺憾なことでした。今後ますます交通事情は危険度を加えると予想される折柄、再びこのような事態の起らぬよう、町を挙げて注意しましょう。

修学旅行の餞別辞退を申合わせ

――県北中三学年PTA総会で

修学旅行は、学校生活の中で一番楽しいことの一つであり、また、短期間に大きな学習効果を挙げ得る機会でもある。家庭をはなれ、多くの学友といろいろの交通機関を利用したり、旅館に泊りながら、次次にあらわれる珍しい社会の事物を見学することは、はじめて見る子どもたちにとって、これからによろこびと驚きの連続である。そしてみちかい旅程の間で、力と知恵の限りをつくしてより深く多くの見学することに努めたいものである。ところが生徒を引率したり、付添いとして行ってみると、生徒たちの旅行中の一番の苦労は「おみやげさがし」で

ある。おとなの入れ知恵とも見られる「ご餞別」に対する「お返し」という旧慣のとりこになっているのであるとうるという態度こそ大切ではあるまいか。

県北中学校三学年PTAでは、近く行われる修学旅行について話し合った結果生徒のおみやげ買いは一切廃止することになった。二泊三日という短かい日程の中には、退を申し合わせ、一般父兄方の協力を求めている。この種のことで大切な事は、情実論を振剣したり、折衷案を持ち出したりしないことである。一べんに何もかも廃止するのは可愛いそうだとか、弟妹や家族へのおみやげはよいとか、〇〇円以内に申し合わせようとか、あの人からは餞別をもらったから、正直者は馬鹿を…

練習とかということは別の機会にゆずって、またと得ない修学旅行の思い出作りとなるよう、お互いに知恵をしぼりたいものである。

一人でもあることは、折角の可愛いい子供の為の申合わせが崩れるもとになる。可愛いい子どもの為、よくよく心したいものである。

校長小林美秋先生談

「まことに結構なことです。社会づきあいという点から全然無意味ともいわれませんが、より大きな教育目的のためには小さな虫をころすことも必要です。おみやげ買いの心配をしなくてよいということになれば、生徒たちはその労力を他の有効な勉強に向けることができて、どれほどしあわせだかわかりません。おみやげを買わないということになれば、当然「こずかい」の競争もなくなり明るい修学旅行をすることができるでしょう。」

◎夫婦仲よく映画教室へ　◎国土緑化に協力しましょう

◎今年こそ揃つて完納……固定資産税第一期・国民健康保険税第一期の納期日は四月三十日です

〝ごっそり防具の贈り物〟

大木戸分会で披露会

四月七日午後一時からの披露会には、八木田支部長（桑折署長）から関係者に感謝状を贈つてその功績をたたえ、教育長その他の祝辞があり、新しい防具をつけての基本指導県北中剣道クラブ員や国見剣友会員の模範演技でみんなをよろこばせた。

【写真】は新しい防具を囲んでのみんなの笑顔

国見町剣友会大木戸部会では、一昨年の改組により剣道がどんどんふえ、近頃は三十名連盟桑折支部大木戸分会（会長志村謙三氏）となり、会員は駐在所を中心として活動し、特に防犯力会と協力して少年剣道部の指導に努めて来た。初めは部員も少なく、防具も町内から借り集めたり、映画会の益金で購入したりして使わせていた。ところがその後これに参加するものがどんどんふえ、近頃は三十名にも達するという盛況を見る事になり、防具の不足が甚だしくなった。これを見た地区民は、誰がいい出したともなく、われもわれもと寄付を申し出で、たちまち七万円の資金が会に届けられた。分会では早速これで少年用十組はさっそくこれで購入したりして解散する熱心さであった。

お父ちゃんも入学

「ラジオ農業学校」ではりきる泉田農研

小坂地区泉田中農事研究会（会長仲野周一氏）では、昨年から始めたラジオ農業学校を利用して、農事の研究をやり、グループ活動の上に大きな効果をあげてきたが、今年は更に馬力をかけて研究をすすめることになつた。今春NHK並びに県で作つたテキストもいち早く全会員で購入し朝晩の放送時には家内揃つてこれをきくことに申合せている。

去る四月六日には午後七時から会長宅に集合し、折から再放送される福島大学角田教授の「日本農業の現状と問題点」「生まれかわる日本農業」という講演をきいてみんなで話し合いをした。ちょうど居合せた態坂経済課長、佐藤改良普及員、鈴木公民館主事も参加したので話はすごくはずみ、午後十一時のこえをきいて解散する熱心さであつた。

会長仲野周一氏談

「今度のテキストはほんとうによくできている。これをよんでラジオをきくとほんとによくわかつておもしろい。ラジオをきかなくともこれをよんだだけでも大したものだ。極端にいえば、図表を見ただけでも参考になることが多い。こんな安くてよい本を買わない人の気が知れない。」

【写真】は集合研修の状況

学習のすすめ

ラジオ農業学校は、放送テキストに従つた個人研修と現地集合研修、地方集合研修の三つの柱から成つています。

◎ラジオによる個人研修

一、ラジオによる個人研修

四月二日から来年の三月末まで次のような時間に放送されます。

月～土曜日　毎朝六時四〇分から二〇分間

日曜日　午前六時三〇分から三〇分間

◎尚朝都合悪い人の為に、夜七時三〇分から三〇分間二朝分づつ再放送されます。

月火曜日の分は、木曜日

水木曜日の分は金曜日

金土曜日の分は次週水曜日

二、現地集合研修

みんなで集つて地域農業の問題をみんなで解決してゆくために行なうのが集合研修です。

単位で開かれものがあります。

新しい農村を望む……むすめたちは語る

農村は大きく変わりつつある農業も大きく変わりつつある。その中で、家庭生活も人間関係も昔のままでちつとも変わつていなかつたら、これからの農家の若い人たちの結婚はなかなかむずかしくなるでしょう。近頃のむすめたちはどんなことを考え、どんなことを望んでいるでしょうか。

今のお父さんやお母さん方の若い頃とちがつて、自分の意見というものをある程度しつかりと持つているようです。

先頃、農村の変わりつつある現状をつゐた「農村は変わる」（二巻）という映画を見たあとで、数人のむすめたちと話し合つてみました。

問……筆者

答……むすめたち

問「近頃、農村に嫁の来てがないとよく言われるがほんとうでしょうか。」

答「そうとも限りません。もらいてさえあれば…」

問「どつちを選びますか。」

答「やはり非農家ですね。」

問「農村や農家のどんなところが気に入らないのか。仕事がひどいのですか。」

答「仕事がひどいとは思わない。百姓は損だ、割に合わない。」

問「農村に嫁の来てがないとよく言われるがほんとうでしょうか。」

答「そうとも限りません。もらいてさえあれば…」

問「どつちを選びますか。」

答「やはり非農家ですね。」

問「農村や農家のどんなところが気に入らないのか。仕事がひどいのですか。」

答「仕事がひどいとは思わない。百姓は損だ、割に合わないとこぼすだけでなく、割に合う新しい農業をやつて見る積極性がほしいと思います。」

問「働めに出ることについてどんなところが魅力か。」

答「日曜が来れば休めるし、お昼には一時間休む。時間で働き、時間で休むことは生活にきりがつき、はりあいがある。」

「それに、自由なこづかいを持つことの楽しさ。」

「若い者同志のつきあい。」

問「農村生活のどこが気に入らないか。」

答「忙しい割に収入が少ない。」

「若い者の考えを年よりがおさえてしまつたり、村全体に古い習慣や考え方が残つていては、何かと束縛される。」

「仕事と自分の生活に区切りがなく、ごちゃごちゃ雑居するくらし方がわずらわしい。」

問「娘や若夫婦が個室を持つことはどうか。」

答「独立の部室があつてこそ個人の生活があると思います。」

「しかし、個室があります

だけでは困ります。若夫婦が個室に引上げることを「家の中が二つにわかれてしまうようで」とか「家族の団らん」という名で束縛してしまつてはかえつて迷惑でしよう。」

問「田畑の経営や財布の受渡しについてどう思いますか。」

答「単に形式的な渡すとか渡さぬとかという問題よりもその持ち方が大切だと思います。」

「いくら台所が電化され、改善されても、そこで働くのは嫁一人というのではだめだと思います。家族みんなの協力が必要だと思います。」

「嫁が家計簿をつけ、姑が現金を保管するという姿がよいと思います。」

「農業経営についても若い者が立てた原案をもとにみんなで話し合つてきめ、協力して実行に当るというようにすればよいと思います。」

問「農村の生活で一番気になることは…」

答「近所の人のうわさ話の多いことです。殊に若い嫁さんや娘たちが絶好のうわさのたねになります。」

「よく出歩くの、しやべるの、頭が高いの、なんのかんののうわさ話は、嫁さんの楽しさを凍りつかせるのに十分です。」

「恋愛どころか、若い者同志の自由な交際もできない。」

「結婚の話となると村中の話題をさらつてしまう。たんすはいくつ、ミシンはどうの、きものはどうの、顔はどうのと全く個人的人権を無視したことを平気でしやべつています。」

「まわりのうるさい目がない都会にあこがれさせるようでは、嫁がこないとこぼすお母さんたちが、自分で自分の首をしめているようなものです。」

結び「農村全体もかわつてきている。若い者の考え方もどんどん変つてきています。若い人の声を聞くと、まず「新しいやり方」の農業を築かつて」の農業の中に、若い男女の協力や工夫をのばしていける余裕があれば、村の縁談にしても、もつと明るい話題になるでしよう。「農村はよい嫁の来手が多くて」ということを祈つてやみません。」

みんなの広場

下水にごみを捨てないで下さい

わたくしの部落では、一年に一回部落民総がかりで下水堀の掃除をします。この間も、道路にあげたまつくろなどろごみが、リヤカーで何台分もありました。はなをつまむようなごみの山をながめよくこんなものを軒先にためておいたものと、誰でも考えます。

ところが次の日からまた、家のまわりから掃きあつめたごみを投げ込む人があるのです。これくらいいいだろうと少しづつ捨てたごみが、つもりつもつて下水堀はつまつてしまうのです。ちりもつもつて山となる―とはよくいつたものです。

申すまでもなく下水堀は用水堀です。道路にまいたり、いざ出火というときは消火用水にもしなければならないのですから、いつもきれいな水を流しておきたいものです。暗渠にごみがつまつて非常時に役に立たない様では、まことに困ります。水一見た目にも見苦しいものです。下水にはごみを捨てない事にしましよう。そして常にきれいな水を流しておきましよう。

（藤田の主婦）

【係より】このことについて、森江野の主婦の方からも次のような投書がまいっています。

川下の身になつて〃

私は、町なかを歩いていつも気になることが一つあります。それは町を流れている川や堀がきたないことです。私の家は川下にあるのですから、そのきたない水を使つて洗いものをしているのです。近頃は上水道ができたおかげで、食物や食器は洗いませんが、それでも農具や手足は洗うのです。台所の下水の流し場であることはわかりますが、形のあるはき集めものまでおざなぐ投げ込むことはやめてもらいたいと思います。環境美化の点からも、お互に流水はきれいにすることに協力しましよう。

（森江野の主婦）

やまはたからよ

「林地肥培の考え方」(一)

五年で成林のこつ

明治以降の農業の進歩は、品種改良と化学肥料の二つが大きな役割をしたといわれています。農作物の栽培には、肥料なしでは考えられません。林業では、今でこそ常識化されつありますが、一むかし前までは、山に肥料をやることは問題にされていなかつたのです。

〃農業と林業はちがう〃

山にやる肥料は、農業と同じ考えでゆくわけにはいきません。農業と林業とでは、収穫するモノが違います。林業では材木―丸太を生産します。農業では、実や葉或いは根の部分を収穫の目的にします。木は同じでも果樹は実を、桑は葉をといつたように、収穫するモノが違います。

そのほか、収穫するまでの期間が、林業ではひじように長いとか、農業のように土地を耕やさないとか、いろいろの点で違つています。とくに養分を土地から奪うという点は、農業では、植物のほとんど全部を収穫という形で、毎年畑から持ち去られます。林業では、何十年に一ぺん、丸太の部分だけが持ち出されるにすぎません。

〃林地肥培の考え方〃

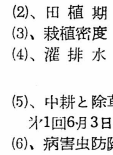
このように考えますと、山の肥料は、林業の特殊性に合つたやり方をしなければならないはずです。単に「肥料をやればいいんだ」という考えでは、いけないと思います。

林業で目的とする材木の大部分は炭素が、根から吸つた水の葉緑素が、葉から空気中の炭酸ガスを材料にして太陽光線のエネルギーを使つて作つたものです。肥料は直接に材木を作りません。肥料は葉と根を十分に発達させることによつてミキを太らせるのです。そして、日光と水分が重要な役割をしているわけです。

したがつて、下刈りをやつて、十分に日光を当ててやらなければ、肥料をやつてもキメはないでしよう。また水分の少ない乾燥地でも困るわけです。

肥料のキメを十分に期待するには、適地に植えることと十分な手入れという造林の原則を守つていただかなければならないのです。

昭和36年度稲作国見町一位の作り方のあらまし



住所　大字徳江字国屋16番地

氏名　佐藤直哉（46才）

反当玄米収量　667.5kg（4.45石）

1、品種　オオトリ

2、苗代　(1)、育苗様式　保温折衷苗代

(2)、播種　(イ)、時期4月18日　(ロ)、量300g（3合）

(3)、苗代肥料（坪当り）硫安450g 過燐酸石灰450g 塩化加里180g

(4)、苗代日数　33日

3、本田

(1)、肥料（反当り）

種類	硫安	燐加2号	塩安	ボーキサイド	過燐酸石灰	みつかね肥料	堆肥
施肥量	45kg（12〆）		7.5kg（2〆）	45kg（12〆）		90kg（24〆）	750kg（200〆）

以上を基肥とし追肥は硫安7.5kg（2〆）を施用した

(2)、田植期　5月21日

(3)、栽植密度　並水植　33cm×16cm（坪当り61.7株）1株苗数3～4本

(4)、灌排水　(イ)、6月12日から極力浅水とした　(ロ)、7月10日（止草後）から小ひびが入る位に干した　(ハ)、落水は9月10日

(5)、中耕と除草

〆1回6月3日（田打車）、〆2回6月4日PCP撒布、〆3回7月10日（手取）

(6)、病害虫防除

ホリドール4回　（二化メイ虫）6月10日～8月3日

アンジン粉剤1回　（紋枯病）　7月18日

セレサン石灰1回　（葉イモチ病）7月25日

4、改善の要点

(1)、早植栽培を実施したこと

(2)、深耕したこと　20cm程度に耕転した

(3)、灌排水徹底　(4)、含鉄資材を施用した